

会津短大 佐川 澄子

1. 今回は縫製時に必要とする糸しごきの力を測定した。また新しい布地の収縮率や縫目つれの分量を前報までの白縞や手拭ゆかた地のそれとを比較した。つぎに実物縫製を試み、洗たく後の寸法の変化や縫製時間の測定に今後の縫製のあり方を検討したので報告する。

2. 今回は市販品男物ゆかた地として代表的な婦人倶楽部ゆかた地を用いて実物の縫製をした。この場合のたて地縫目は30cmごとに0.3cmぬい糸をゆるめて次一針返し針とした。白縞は洗たく後の耳のつれ方が烈しいので、耳切り込みを行ない、布端を折り仕立とした。これらは同一人が細分化された仕事区分について時間測定を行ない、新しい仕方をしたための必要時間を算出した。ぬい糸のしごき方は縫製には欠かせないものであるが確たる資料もないので、学生3人が30回づつ糸しごきをし、左右の手の力の比較、個人差などについて算定をばね式懸垂指示はかりによって測定した。また、新しい布地はこの実験に先立って、既報の方法で収縮率や縫目つれの実験を行なったのは当然のことである。

3. 糸しごきの力には個人差があり、普通は右手のしごく力が左手よりもまさっていることが明らかとなった。実物洗たくの結果は、後幅、前幅、衽幅等よこ地には変化が見られなかったが、背縫、脇縫、衽附等たて地の寸法にはぬい方上の差の結果が明らかとなり、いままでの基礎実験の結果が実物にも生かされていることに確信をえたわけである。